

ZENBUTSU

# 全仏



No.  
519

仏暦2549年 6月  
[2006年]



(ブータン：ツェチュ祭の大掛仏 撮影=田村 仁氏)

## CONTENTS

### 報告 ————— WFB 世界仏教徒会議台湾大会開催される

日本宗教連盟 (理事会・参議会報告)

第二十七期 審議会・委員会名簿

第一回広報委員会開催

「伝統仏教と地域社会の関係」についてアンケート報告 (第3回 展望)

事務総局録事



財団法人 全日本仏教会  
JBF WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

# WFB世界仏教徒会議台湾大会

## 開催される

第二十三回WFB世界仏教徒会議・第十四回WFBY世界仏教徒青年連盟会議・第六回WBU世界仏教大学会議が台湾で開催された。

本会からは、戸松義晴師(国際交流審議会委員・WFB執行委員)と壽山良光国際部長・北折真一国際部次長が参加。WFBY世界仏教徒青年連盟会議台湾大会には全日本仏教青年会理事長の坂本観泰師(本会理事・国際交流審議会委員)が参加をした。

また、来る二〇〇八年の日本大会開催に向け国際交流審議会委員・財団創立五十周年記念事業実行委員会委員によって組織された大会視察団(岡野正純師・正本乗光師・日比野郁皓師)も会議にオブザーバーとして参加した。

四月十七日から二十一日の間には、本大会に併せて、台湾の仏教事情を視察する、「WFB世界仏教徒会議台湾大会記念ツアー」が、安原晃理事長を団長として生まれ、開会式に参加。その席上、大道晃仙会長のメッセージが安原晃理事長によって代読された。

今号では、会議の様相を壽山良光国際部長が、記念ツアーの様相を江口智

流広報文化部長が報告する。

また、次号では、会議の詳細な報告と、日本大会にむけての、今後の課題と抱負を、戸松義晴師に御執筆いただく予定である。



大道晃仙会長のメッセージを代読する安原晃理事長

### 会議報告

壽山 良光

四月十九日から二十三日まで、台湾・高雄の仏光山で第二十三回WFB世界仏教徒会議台湾大会が開催された。

本会はタイに本部のあるWFB(世界仏教徒連盟・世界に約百五十センター)の唯一の日本センターである。今回の第二十四回大会を日本で開催することから、今回通例の代表の他に、財団創立五十周年記念事業実行委員会委員、並びに国際交流審議会委員に呼びかけて視察団を組織、大会運営方法などを詳細に視察した。



開会式の模様

十九日の第七十一回執行委員会から始まり、昨年八月にタイで行われた第七十回執行委員会の議事録の承認、新規加盟団体の承認が行われた。

続いて、WFBの財務状況の報告、今後の二年計画、及び長期計画について総会前の確認が行われた。

またWFB功労賞の審査が行われ、長年に亘るルンビニー園復興事業への



総会の模様  
テーブル、右端が戸松義晴師

協力が評価され、本会への賞の授与が承認された。また、翌日に開催される総会の内容について検討・承認された。翌二十日午前の全体会議では、執行委員の選挙が行われ、定員八人に対して十二カ国から立候補があり、本会からは現職の戸松義晴師が一位で当選した。

開会式をはさんで、午後に総会が行われ、規約改正案について討議が行われた。その際、議事の進め方について会場から多数意見が出された。そして規約改正については、今後各センターがその内容について吟味し、本部がその意見を集約した上で、改めて執行委員会で協議、次回大会(日本)で再び議論されることになった。



WFB-WFBYの大会旗(仏旗)を受け取る壽山良光国際部長(中央右)と坂本親泰全日仏青理事長(右)

二十一日は各種委員会の討議が行われた。日本は財政委員会の委員長を務め、会費未納団体への納入勧奨、並びにWFB本部の財政状況の逼迫、新たな事業展開による経費の増額などを考慮し、年会費(現在、百ドル)の増額の可能性などについて示唆を行った。

二十二日は、同時開催されていた第十四回WFBY、並びに第六回WBUの出席者と共に、バス六台に分乗し、高雄市内のレストランで歓迎昼食会に出席した。

全体にコンパクトな大会であった。食器類は総て紙、食事も精進の質素なものであったが、特に不満も感じられなかった。逆に、宿泊する部屋はホテル並の設備を持ち快適であった。会議の運営、選挙方法などは今後、検討の余地が感じられた。

## 本会のルンビニー園復興事業の

## 業績が表彰される

第二十四回WFB世界仏教徒会議台湾大会の開会式に於いて、WFBパロップ事務総長から法輪をかたどった記念の盾が、本会、安原理事長に手渡された。

これは、本会が約三十年の長きに亘り取り組んできたルンビニー園復興事業に対してWFBがその功績を大きく評価したことによる。

昨年八月にWFB執行委員会がタイ・バンコクで開催された折り、その席で本会は出席者全員に考古学調査報告書『ルンビニー マヤ堂の考古学的調査』を手渡した。出席者からは大きな拍手が湧き、本会代表は握手を求められた。

一九七八年の第十二回WFB日本大会で協力が決議された本事業は、ネパールの政変や両国の慣習の違い、現地の厳しい気候などに推進を阻まれ難航を極めた。

そうした中、一九九五年にマヤ堂直下から釈尊生誕の地を示す「印石」が発見され、それも契機となつて一九九七年にはルンビニー園がユ

ネスコ世界文化遺産に登録された。

二〇〇三年にはマヤ堂がネパール側の手により完成。昨年には、志半ばで急逝した上坂悟本会派遣考古学者の遺志を受け、恩師の坂詰秀一立正大学前学長の手によって報告書が完成。マヤ堂考古学調査報告会も開催された。

本会の事業もこれで一区切りを迎えることとなった。



記念の盾を受け取る、安原晃理事長(左)

## ツアー報告

江口 智流

WFB世界仏教徒会議台湾大会記念ツアー(四月十七日～二十一日・以下WFBツアー)が安原晃理事長を団長として開催された。(日華仏教交流協会後援)

今回のツアーには成田空港発と関西空港発の四十五名が参加した。

通例、WFBツアーは前半にWFB世界仏教徒会議の開会式への参加をしてから、各地を巡る形で行われてきた。しかし、今回は、実質、ツアーの最終日(二十日)に開会式へ参加した。



開会式会場(仏光山)の前にて、開会式後の集合記念写真

開会式参加までの間に、各地を巡りながら、台湾の仏教事情を学び、文化に触れ、参加者同士も交流を深められ、二年後には日本において大会が開催さ



「全戦没者追悼法要」の様相  
安原理事長と真宗大谷派のみなさん

れるという事情も浸透した上での参加であったため、今までは趣きも異なり、参加者各位の開会式への参加意識も高く感じられた。

ツアーは台北から台中、台南(高雄)へと、台湾をバスで縦断していった。

強行軍ではあったが、台湾の諸寺院を参拝しながら、台湾の文化に触れ、密度の濃いツアーであった。

十七日 出発・故宮博物院見学・結団式

十八日 中台禅寺・玄奘寺参詣

十九日 宝覺寺参詣・台中公園観光

二十日 WFB世界仏教徒会議開会式・

さよならパーティー

二十一日 帰国

十九日の宝覺寺においては、安原理事長導師の下、真宗大谷派の法要式に則って、「全戦没者追悼法要」が謹修された。

表 白

敬って、阿弥陀如来の御前に白しあげます。

本日ここに、WFB世界仏教徒会議台湾大会親善旅行団団員と共に、宝覺寺日本人墓地において、全戦没者追悼法要を勤修いたします。

おもみれば、およそ戦争は、家と家との憎しみ、人と人との怨みにあらず、ひとえに民族の横暴、国家の侵犯であって、過ぐる大戦もまたその一つであります。

ひとたび戦火が起これば、平安は打ち破られ、人々は踏みにじられ、あるいは鬼となり狂気となって、生命を奪い合うこととなります。その悲惨さたるや、まことに想像を絶するものがあります。

とりわけ、異国の地において戦没した日本人、また、アジア周辺諸国の人々に対して強いてきた計り知れない苦痛と悲しみを憶うとき、私たち仏教者は、仏の御教えに背き、御意に反し、願いに応えることができなかつたことを、痛嘆せざるを得ません。

戦争が終えて六十年、今にその傷痕に苦しむ人も少なくありませんが、かえって、戦争の悲惨さを知らない人が多くなつてきています。

この間、多くの日本、台湾をはじめ浄土へ旅立ちたる法友、その数は数え切れません。

今や、永く、その劫火を記憶に留め、遙かに恩讐を超えて、ともどもに仏陀釈尊の法流を汲むべき時であります。

希わくは、あらためて三界六道の冥闇を厭い、迷界の愚昧を恥じて、思いを難思の法海に浮かべ、ひたすらに戦争のなきことを念じ、とこしなえに兵戈用いらざることを誓い、併せて、一九九九年九月二十一日に発生した台湾地震によって無念にも尊い命を奪われた方々に対して哀悼の誠を捧げつつ、仏恩報尽のつとめに勤しまんこと、ここに誓うものであります。

敬 白

二〇〇六年四月十九日

財団法人 全日本仏教会

理事長 安原 晃

日宗連

日本宗教連盟(以下、日宗連)は、

本会・教派神道連合会・日本キリスト

教連合会(以下、日キ連)・神社本庁

・新日本宗教団体連合会の五団体で構

成される団体であり、四月二十六日に

日宗連の理事会・参議会が開催された。

山北宣久理事(日キ連)が理事長に

互選され、佐藤丈史幹事(日キ連)が

事務局長に就任した。里見達人前理事

長(本会前理事長)は、本理事会をも

つて理事を退任され、安原晃本会理事

長が日宗連の理事に就任した。なお、

里見達人前理事長は山北宣久理事長よ

り顧問を委嘱された。

議案としては、平成十七年度事業報

告書(案)並びに収支決算書(案)に

ついての承認を求める件、日宗連創立

六十周年記念事業(案)についての承

認を求める件が全会一致で承認された。



里見達人前理事長

# 第二十七期審議会・ 委員会名簿

## 総務財政審議会

山下 昭文 曹洞宗

中尾 史峰 浄土真宗本願寺派

富樫 珠徳 真宗大谷派

曾和 義雄 浄土宗

張田 珠潮 日蓮宗

高橋 智運 高野山真言宗

松山 英照 臨済宗妙心寺派

小林 祖承 天台宗

司東 和光 真言宗智山派

鈴木 道雄 真言宗豊山派

新倉 典生 東京都仏教連合会

近藤 真道 愛知県仏教会

高島 孝範 仏教伝道協会

## 社会人権審議会

坂田 徹応 曹洞宗

井上 博雄 浄土真宗本願寺派

杉本 了恵 真宗大谷派

浅野 義光 浄土宗

田澤 元泰 日蓮宗

佐々木 兼俊 高野山真言宗

神代 紹文 臨済宗妙心寺派

源田 俊昭 天台宗

## 国際交流審議会

鈴木 永城

吉田 泰樹

健代 和央

小島 恵真

佐藤 玲秀

小林 千秋

林 安明

新田 智通

戸松 義晴

今井 真行

富家 海信

渡邊 宗徹

一島 正真

久志 卓世

島村 智教

田中 光成

高島 孝範

坂本 観泰

奈良 康明

松濤 弘道

小笠原 隆元

松永 然道

成田 孝英

## 広報委員会

松尾 徹裕

西山 慈晃

曹洞宗  
浄土真宗本願寺派

真言宗智山派  
真言宗豊山派  
和宗  
東京都仏教連合会  
仏教情報センター

浄土真宗本願寺派

浄土宗

日蓮宗

高野山真言宗

臨済宗妙心寺派  
天台宗

真言宗智山派

真言宗豊山派

国際仏教興隆協会

仏教伝道協会

全日本仏教青年会

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

学識経験者

曹洞宗

浄土真宗本願寺派

齋藤 明聖 真宗大谷派

入西 勝彦 浄土宗

太田 順祥 日蓮宗

倉岡 弘叔 高野山真言宗

## 第一回広報委員会開催

並木 優記 臨済宗妙心寺派

福井 邦彦 天台宗

三神 栄法 真言宗智山派

上田 則夫 真言宗豊山派

丸山 邦雄 神奈川県仏教会

杉山 令憲 岐阜県仏教会

高山 久照 日本仏教保育協会

坂本 観泰 全日本仏教青年会

五月十二日(金)、本会会議室に於いて第一回広報委員会が開催された。本年度より、広報文化部が新設されたことに伴い広報委員会が設置された。その、初めての委員会の開催となった。

委員会では、全日本仏教会財団設立五十周年記念事業をモデルケースとして、今後の仏教界の広報を考える、というテーマが主眼とされ、報告や検討がなされた。

全日本仏教会のホームページの改良や全仏誌の改良とその広報、またそれらの広報と加盟団体の広報がいかに連携して行くべきか、等々の議題が論じ

られた。

特に、ホームページでは、西暦二〇〇〇年からの過去の全仏誌(当冊子)が全て無料で閲覧・受信でき、「宗教法人法」に基づく宗教法人の備え付け・提出書類がダウンロードも可能で、いずれも印刷も可能である。また、加盟団体や本会からの最新情報も掲載されている。しかしながら、ホームページ自体の認知度が充分とはいえないのが課題であるといえる。当冊子は読んでいるけれど、ホームページは見たことがない、という方は、閲覧頂ければ新しい発見があるのではないだろうか。

広報委員会において、広報についての意見交換や新たな提案がなされることは、本会のみならず仏教界全体の広報を考える上でも重要な事であり、委員会も活気のあるものとなった。

今後各審議会・委員会が開催されて参りますので、随時誌面にて報告掲載させていただきます。

## 無料法律 相談室

顧問 長谷川正浩  
弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上お下下さい。

■『伝統仏教と地域社会の関係・アンケート調査』結果報告 <第3回>

## 全日本仏教会に期待される「広報センター」の役割

報告： 澤 茂 樹

第三回は、「全日本仏教会」の認知・理解状況と、その役割への期待を中心に報告します。また、今回の調査から見えてきた取り組み課題についても総括します。

まず、全国の寺院の住職から、全日本仏教会がどの程度見えているかという点ですが、残念ながら「活動内容までよく知っている」(14%)「なんとなく知っている」(50%)と、十分な認知率とはいえない状況です。個別の活動内容(リスト提示)の認知でも、「機関誌『全仏』による情報発信」(68%)「花まつりポスターの頒布」(43%)「社会問題への研修会」(42%)が比較的高いものの、多くの活動実績はあまり認知されていません。さらなる内部広報が必要です。(次ページ図表)

しかし、こうした会の活動が伝統仏教界に役立っているかどうかの質問では、回答者の70%が「役立っている」と答えています。また、活動内容の認知者ほどスコアが高くなることから、会の活動を知る人ほど役立ち度を評価している傾向が読み取れます。その一方で、会の活動が寺院(自坊)にとって役立っているかどうかについては、どちらかといえば「役立っていない」(59%)と否定的です。この結果は、全日本仏教会が各宗派や地域仏教会が加盟する連合組織であるという性格から、ある程度やむをえないことではありつつも、寺院(自坊)からは距離のある、遠い存在にとどまっていることを示しています。もう少し、個別寺院にまで届く情報提供やコミュニケーション活動が必要かもしれません。

\*

全日本仏教会における重点活動の認知率は、「全日本仏教徒会議」(53%)「WFB世界仏教徒会議」(42%)「財団設立50周年」(33%)にとどまっており、決して満足できるレベルではありません。ここでも、一層の内部広報が必要となってきますが、これらの事業は全日本仏教会のみならず、伝統仏教界全体にとっても意義深い活動となります。各宗派や地域仏教会の方々を通じての幅広い情報伝播が必須となることから、各位のさらなるご尽力を期待したいと思います。

ところで、今回、全日本仏教会にどのような役割を期待しているかを聞いています。最も期待されている項目は「伝統仏教界をつなぐ架け橋となる」(63%)です。次いで「社会問題に対する見解表明」(51%)「全日本仏教徒会議でのアピール」(37%)と続きます。また、広報すべき対象としては「一般市民」(53%)「寺院をとりまく地域社会」(47%)「加盟団体の僧侶」(45%)が挙げられていることから、伝統仏教界内部はもとより、広く社会・一般市民への情報発信も大いに期待されています。この点からも、上記3事業を通じての、広報活動の重要性が見えてきます。

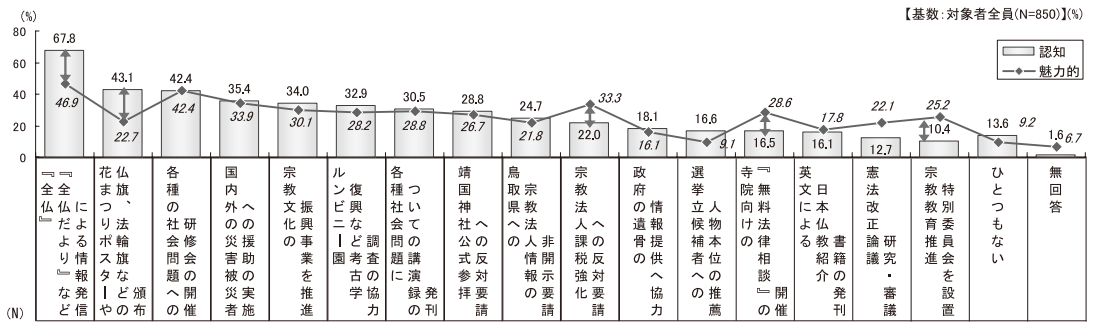
\*

今回の調査は伝統仏教界の僧侶を対象とした意識調査ということで、ある意味、画期的な試みであったと評価しています。そこに表された数値や自由回答も、ある程度、今日の伝統仏教界の現実を反映した客観性のあるものと考えます。また、その結果は伝統仏教界にとって、あるいは全日本仏教会にとって、決して安閑としていられない厳しいものでした。それだけ、伝統仏教界内部の現状に対する危機感や問題意識が強く、かつ課題解決を希求する声が強くと表明されているものと解釈できます。

今日、伝統仏教界が抱えている諸課題の中には、檀家制度の崩壊や国民の信仰離れなど、本質的で構造的な問題も多々含まれていますが、一方で、伝統仏教界側から社会に向けて積極的に働きかけていくことで解決できる問題も数多くあるのではないかと思います。そして、その働きかけの主翼を担うのが「広報活動」であろうと確信しています。

まさに、今回の調査結果が明らかにしたことも、伝統仏教界における「広報活動」の重要性に他なりません。その先陣となり、伝統仏教界の広報をリードすべき全日本仏教会の役割は極めて重大です。伝統仏教界における「広報センター」としての機能充実を、切に期待してやみません。

### \*アンケート調査 図表



# 事務総局録事

## 四月(十一～三十日)

- 十一日 ▼ WBU理事、市村氏来局
- 十二日 ▼ 「日宗連」監査会
- 十三日 ▼ 局内会議
  - ▼ BNN来局
  - ▼ 文化庁来局
- 十四日 ▼ 部落解放同盟中央本部訪問
- 十五日 ▼ WFB視察団打ち合わせ
  - ▼ WFB首相主催「桜を見る会」出席
- 十七日 ▼ WFB世界仏教徒会議台湾大会出席(～二十三日帰国)
- 二十四日 ▼ インド仏教会来訪
- 二十五日 ▼ 自民党業務改革推進委員会管轄「83会出版記念パーティー」出席
- 二十六日 ▼ 「日宗連」理事会・参議会・幹事会
  - ▼ 局内会議
  - ▼ 法律相談室
- 二十七日 ▼ 中外日報来局
- 二十八日 ▼ 荒川正憲師来局(戒名法名リーフレットについての毎日新聞記者取材の為)
- 三十日 ▼ スリランカ大僧正歓迎パーティー出席

## 五月(一～十日)

- 六日 ▼ 国連 ヴェネツィアデー出席(於タイ バンコク 九日帰国)
- 八日 ▼ 「日宗連」幹事会
  - ▼ 「全青協」記念式典出席
- 十日 ▼ 電通と打合せ

## 哀悼

武宮聰雄師(本会元評議員)  
四月二十七日遷化 八十五歳  
真宗大谷派元参務

### ★今月の表紙について★

ブータン(ツェチュ祭の大掛仏)  
ブータンの各地では、ツェチュ祭と呼ばれる、ヒマラヤ地方に仏教を伝道したパドマサンババ(グル・リンポチエ)の威光を悪霊達に再確認させるための盛大な法要を年一度営む。  
仏教の教えを舞踊にして広める祭りといわれ、表紙の写真は、祭りの最終日、夜明け前に、年一度ご開帳されるトンドル(大掛仏)。日中は和やかに盛り上がりを見せるデヤンカ広場も、ご開帳の時は厳かな雰囲気にも包まれる。

### 訂正

前号(五一八号)九頁・「曹洞宗による遺骨調査の取り組み」欄、三段目・後ろから五行目において、「イデオロギーや民主主義」と掲載致しましたが、「イデオロギーや民族主義」の誤りでした。  
謹んで訂正させて頂きますと共に、不手際によりご迷惑をおかけしましたこと、関係各位に心よりお詫び申し上げます。

### 仏教ポケットカード2 作成開始!

多数の御依頼がありました「仏教ポケットカード」の第二弾を、この度、作成する方向で動き出しました。  
まだ、若干時間が掛かるとは思いますが、少しでも良い物を作ろうと試行錯誤しています。  
完成しましたら、誌面並びにホームページでお知らせさせて頂きます。

仏教ポケットカード2

「おかげさま」



(試作案)

# 仏教界からもっと積極的な情報発信を!

## ～情報提供のお願い～



# おかげさま。 地域の縁・ アジアの縁

e-mail [kouho@jbf.ne.jp](mailto:kouho@jbf.ne.jp)

全日本仏教会は財団創立50周年を契機に、「仏教界における広報的役割」を主眼に置き、より一層の広報の充実化を進めています。つきましては、加盟団体の皆様はもちろんのこと、一寺院。一仏教者。そうです、あなたの情報を広く求めております。是非皆様の情報提供をお願い致します。情報は、主にホームページを中心として発信させて頂きます。

たとえば、

- ・ テレフォン法話
- ・ テレフォン相談
- ・ 講演会
- ・ 仏教・文芸・芸術をはじめとする各種講座の開催や研修会・セミナー等
- ・ ご宗派やご寺院にとって特別な法要
- ・ 写経会
- ・ 座禅会

その他、様々な情報をお寄せ下さい。

ホームページの相互リンク先も募集中です。詳しくは全日本仏教会のホームページをご覧ください。

<http://www.jbf.ne.jp/>